

※本資料では会議翌日以降に到着したアンケート結果も反映している

今後のコンソーシアムの進め方 についての意見交換

令和6年1月22日
震災伝承みやぎコンソーシアム事務局

1 前回までの振り返り

○ 伝承に関する3つの柱を元に、コンソーシアムの5つの目標を設定

3つの柱（県・基本方針、2021.4策定）

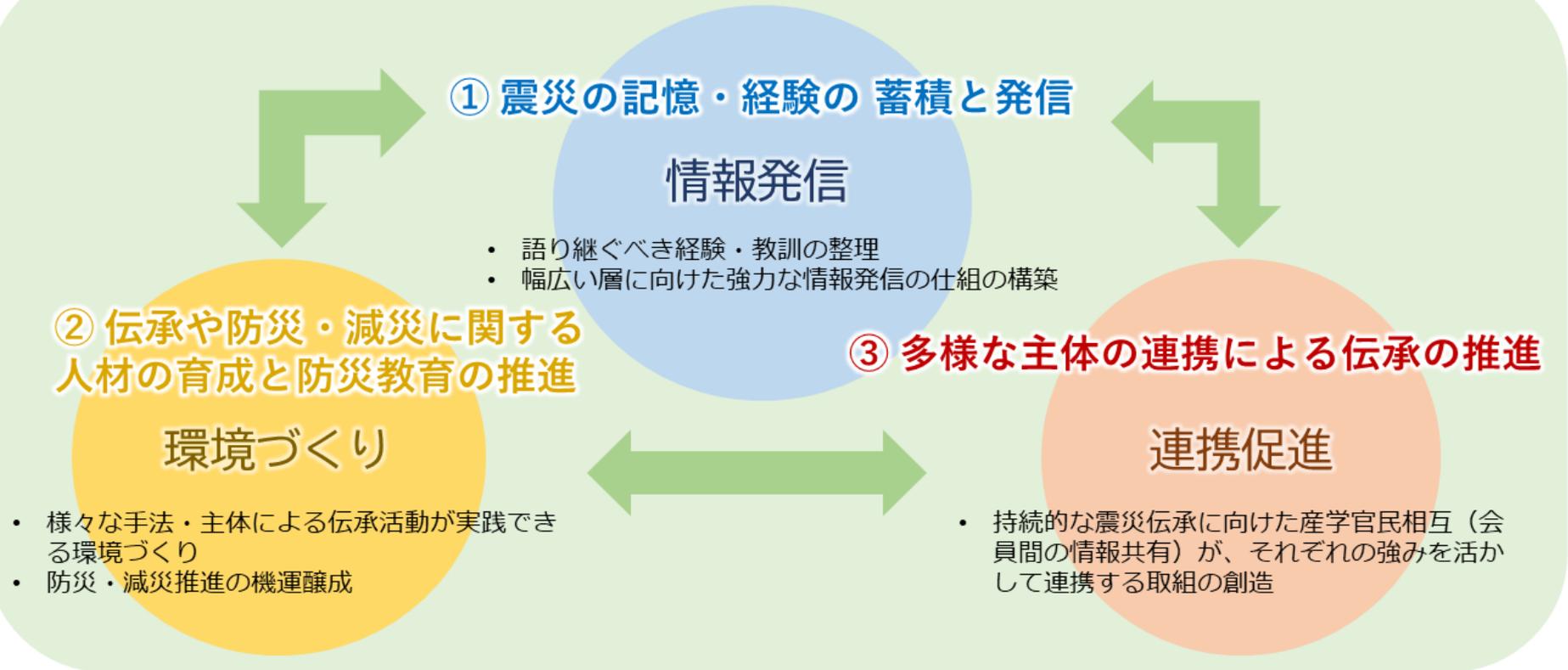
1. 震災の記憶・経験の蓄積と発信
2. 伝承や防災・減災に関する人材の育成と防災教育の推進
3. 多様な主体の連携による伝承の推進

5つの目標

- ① 語り継ぐべき経験・教訓の整理
- ② 幅広い層に向けた強力な情報発信の仕組の構築
- ③ 様々な手法・主体による伝承活動が実践できる環境づくり
- ④ 防災・減災推進の機運醸成
- ⑤ 持続的な震災伝承に向けた産学官民相互（会員間の情報共有）が、それぞれの強みを活かして連携する取組の創造

1 前回までの振り返り

震災伝承みやぎコンソーシアム



○ 前記の目標（プロジェクト）から、具体的取組として、**3つの部会（①②③）**を立ち上げ

○ コンソーシアムの取組＝プロジェクト（部活？）と捉え、活動

これまでの意見交換
を踏まえ、部会活動
についてアンケート
を実施

2 アンケート結果の報告

令和5年12月26日付けで会員宛てに部会活動に関するアンケートを実施

- 回答数55件（うち同一団体重複2件）
- 会員数78団体（アンケート実施時）
- 回答率**67.9%**（53※/78）※団体重複分除く

注：（）内の分子は回答団体数、分母が会員数

<団体別回答率>

- 伝承団体等：77.4%（24/31）
- 学術機関等：0%（0/2）
- 報道機関：45.5%（5/11）
- 企業等：66.7%（10/15）
- 行政機関：73.7%（14/19）

注：行政機関の回答のうち2件が同一団体からのもの

震災伝承みやこコンソーシアム 部会活動に関するアンケート

団体名

担当（記入）者

問1 令和5年度第2回コンソーシアム全体でお示しした部会活動についてのお考えを、次の選択肢からお選びください

① 賛成
② どちらかといえば賛成
③ どちらともいえない
④ どちらかといえば反対
⑤ 反対

答1 ←リストからお選びください

問2 問1でお答えいただいた理由を記入ください

答2

問3 部会活動を実施する機会、お示ししたプロジェクトのうち、参加したいものを次の選択肢からお選びください（複数回答可）
※ 1) 内は数として整理されるものです

① 情報発信（新聞発行や雑誌セミナーへの参加、県外への出張等）
② 運営づくり（人材育成のための研修会の開催、学術向け普及啓発の作成など）
③ 連携促進（他団体・プログラムの開発、県内伝承施設・ミュージアムの連携など）
④ その他のプロジェクト
⑤ 参加しない

答3 該当する番号の下のボックスに「○」をつけてください
① ② ③ ④ ⑤ ←リストからお選びください

問4 問3で④又は⑤を選んだ方はその理由を記入ください

答4

問5 部会の実施頻度は年何回程度が望ましいですか

答5 ←リストからお選びください

問6 部会の実施の方法として望ましい方法について、次の選択肢からお選びください

① 対面
② WEB
③ ハイブリッド（対面+WEB）

答6 ←リストからお選びください

問7 WEBで会議を実施する場合参加が可能ですか

答7 ←リストからお選びください

問8 部会活動を実施するうえで、事務局に期待することがあれば教えてください

答8

問9 部会活動を実施していくうえで、貴方の方に意見やアドバイスがあれば教えてください

答9

問10 その他、コンソーシアムの今後の活動に期待することがあれば記入ください

答10

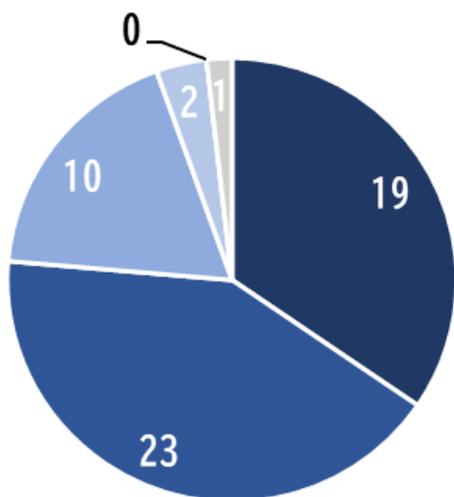
アンケートはこれで終わります。ご協力いただき、ありがとうございました。

2 アンケート結果の報告

問1 部会活動についての賛否

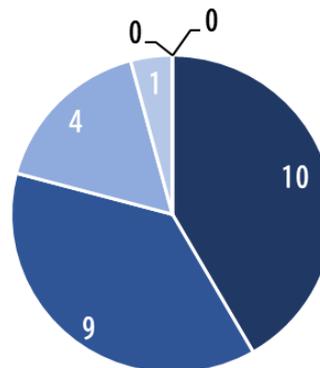
- 76.4%が肯定的（伝承団体等会員は79.2%が肯定的）
- 「⑤反対」の回答はゼロ

問1 賛否（全体集計）

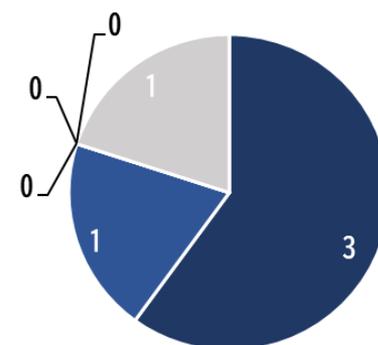


- ①賛成
- ②どちらかといえば賛成
- ③どちらともいえない
- ④どちらかといえば反対
- ⑤反対
- ⑥無回答

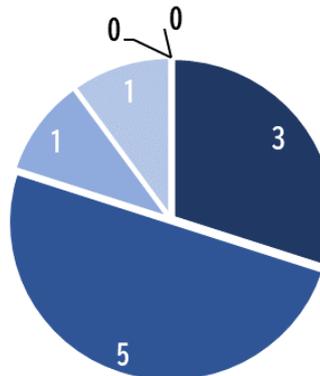
問1 賛否（伝承団体等）



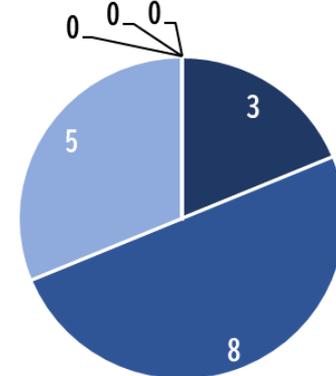
問1 賛否（報道機関）



問1 賛否（企業等）



問1 賛否（行政機関）



2 アンケート結果の報告

問2 問1の回答の理由

①賛成の主な意見

- ・ 人と地域との**連携**や継続は必須。
- ・ **かかわり**を持つことは大事。機会を作ることは大幅なプラスとを感じるから。
- ・ 特に教育行政との**つながり**が希薄なことが課題であると感じてるため、このような活動は重要。
- ・ **方針方向性**がより明確になることに期待。
- ・ 今後多くの活動が増えてきた場合に部会での活動が必要。
- ・ まずは何事も前向きに進めるべきと考えるため。
- ・ **特に反対する理由がない**。
- ・ 加盟団体の一員として、**目標に向けた活動**に参加することが大事。
- ・ 今後大事な方向性だと思う。
- ・ これまでの全体会での意見集約を踏まえた活動であるため。一步踏みだして、改善が必要な場合は適宜改善できれば良い。
- ・ 皆様のご意見が集約されて、更に前進した内容だと感じている。
- ・ スピード感をもって、**バランスを取りながら進めていける**と思う。
- ・ **報道機関として震災の記憶風化を防ぐため**に有用な取り組みだと考える。
- ・ **具体的な活動目標・内容を定めての活動のほう**が、道筋が見えやすく、活動に力が入ると思う。
- ・ 産学官連携を推進し、防災に関する情報発信やコンテンツ制作に積極的に取り組むことは**地域の防災教育の観点で非常に重要**である。
- ・ 地域や企業・団体など様々な連携し、継続していくことが重要。
- ・ **コンソーシアムでの事業が活発化**し、新しい発見や取組が期待できるから。
- ・ **伝承の取り組みや目標がしっかり整理**されていた。

②どちらかといえば賛成の主な意見

- ・ なかなか時間のタイミングが皆さんと合うか不安であるため。
- ・ 部会活動自体には賛成だが、遠方のため、どうやって行けばいいのかわかってない。
- ・ **コンソーシアムにおいて、一定の通過点及びゴールを見据えて**活動することが必要と思う。
- ・ **実践していく中でどこに力点を置くか**という課題が出てくるように思うので、ある程度軽重を示しても良いように感じる。
- ・ 伝承団体の主体性にこそ、意味があるため。ただ、既存の活動も時間経過とともに戻す必要があり継続性に懸念がある。意思決定のガバナンスや財源について、更に整備する必要がある。
- ・ 既存のメモリアルネットワーク等の活動とどのように関連付けづけるか、既存の団体との調整が必要になる。
- ・ **私たちが協力できることがあれば参加させてほしい**。
- ・ **課題ごとに具体的な取り組みに発展するキッカケになり得るか**と思う。
- ・ 小さな活動から始めるのが良い。**やりながら改善をするかたちが望ましい**（ダメなら撤退も含め、まずは動くこと）。
- ・ 実行部隊が必要。
- ・ **議論の方向性、活動方針に異論はない**。
- ・ **伝承活動ができる環境づくり**や他関係者の支援は必要になるので、このような取組はとても重要になる。
- ・ 自組織の他部門が主な活動を行っているため。
- ・ 取り組み自体は良いと考えるが、**手上げ式の場合、参加が少数となったときに負担が大きくなる**。
- ・ 何もやらないのは良くないため、何かをやった方が良いと思うが、このコンソーシアムでやることの意義・必然性、立付けの部分は精査するべき。
- ・ **実施するのは悪くないアイデア**。他方、宮城県内の伝承関係団体の緩やかな連携の場というコンソーシアムの存在を考えると、**自由闊達な情報交換や意見交換等の機会**は確保されるべき。
- ・ 会員の負担等気になる部分はあるが、今後の震災伝承活動のあり方について検討する必要があると考えるため。
- ・ **持続可能な震災伝承の推進が図れる**ようになると感じたため。
- ・ **業務の兼ね合いから毎回出席するのが難しい**。
- ・ 前回の会議に不参加で、資料も拝見させていただいたが、まだ理解できていないから。
- ・ Misson→Vision→Values、それぞれ明確にすることで柱（中心軸）が見え、派生する枝葉（目標や具体的な取り組み）もようやく共通理解になる前提はあるが、情報交換だけでなく**まずは活動を行うことでまた課題が出来、また次への取り組みにつながるサイクル**になっていくことを期待する。その具体的な取り組みを宮城県が柔軟に弾力的にサポートすることが継続的な活動につながることも期待。但し、個別団体の活動支援については一律ではなくケースマネジメントしていく必要性もあり、厳密なルール化をすることは望まない。整理・活動するだけでなく常にケアサポートできる視点もコンソーシアムに望む。とにかくまずは始めてみることに意義を持ちたいと思います。

ゆるいつながりをもちつつ、共通のゴールに向かって活発に活動する意図に賛同。それを実現するための活動体制を考える必要。

2 アンケート結果の報告

問2 問1の回答の理由

③どちらともいえないの主な意見

- 当組織が施設の運営をしていないため。
- 前回の話し合いでは未だに方向性含めてメンバーの創意が不明なため根本的な協議が必要。
- 第2回コンソーシアムにて会員間での部会活動について協議が不足していると認識、今後の会員間での協議が必要。
- 前回全体会を欠席したメンバーとしては具体的な事は何もわからないので返答のしようがない。
- メーカー側からすると主体はあくまでも各伝承団体であり、特定の部会に入るといよりも必要に応じて各部の手伝いができればと考えている。
- 当団体は、伝承業務に特化していないため。
- 伝承施設の方など会員の方の賛成が多い場合、実施したほうがよい。
- 震災伝承の取組みについては、県内自治体において温度差があるため、部会を立ち上げ運営することができるかどうか分からないため。
- 伝承活動をされている皆様が希望されるようであれば実施することは良い。
- 方向性に異論はないが、それぞれの施設が経営的な観点からも継続が課題となっている中、物理的な距離の問題も含め、プロジェクトの自主的な運営を行うことが出来るのか疑問がある。

④どちらかといえば反対の主な意見

- 県全体としての情報発信強化は必要であり、検討のためのワーキンググループは必要。一方、連携組織としての役割を考えると、その他は全体会での情報共有・意見交換が良い。
- 参加者の調整が現状難しい。

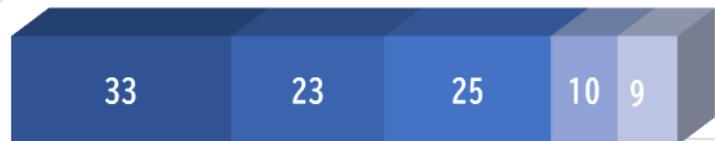
2 アンケート結果の報告

問3 部会活動を実施する場合、参加したいもの

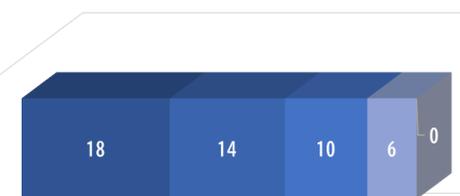
- 情報発信が最多
- 26団体が複数の部会を選択（うち、伝承団体等は14団体）

問3 参加したい部会（全体集計）

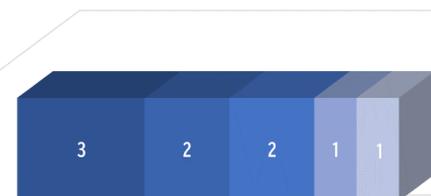
- ①情報発信
- ②環境づくり
- ③連携促進
- ④その他のプロジェクト
- ⑤参加しない



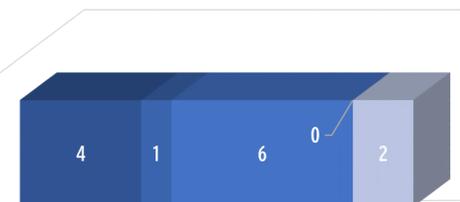
問3 参加したい部会（伝承団体等）



問3 参加したい部会（報道機関）



問3 参加したい部会（企業等）



問3 参加したい部会（行政機関）



問4 問3で④「その他」又は⑤「参加しない」を選んだ理由

- ④「その他のプロジェクト」は、具体的な何かというよりも、今後の可能性を見据えての選択が多かった
- ⑤「参加しない」は特定の部会に所属せず、オブザーバー的な参加を希望する意見が多い

④選択者の主な意見

- ・ 必ずしも①～③に収まる内容ではない事例が出てくると思うため。
- ・ 世界規模の災害被災地との意見交換など、インバウンドも含めた大きな規模感のプロジェクトも進めたい。
- ・ ①②③の以外にも何か検討を重ねればあるかもしれない。
- ・ 意義・必然性を考えていった場合、①～③以外の企画も可能性がある。
- ・ 「情報発信」は、当団体は従来から教育旅行セミナーへの参加を行っているが、財源・人員に余裕がなくなってきたため参加が難しくなっているだけで、コンソーシアムの取り組みとするなら、方針と支援が必要。「環境づくり」で取り組むべきことは、研修会や防災教材の前に、各構成員の活動の下支え（財源も方針も無いままに、各組織が取り組む余裕がないのが現状）。「連携促進」も、新規の共同プロジェクトの前に、皆さんの取り組みの相互理解、尊重、下支えが肝要。
- ・ 持続可能な伝承活動を検討するプロジェクトや日本全国に波及させていくことを検討するプロジェクトなど様々に考えられるため。
- ・ 実施するための組織づくり(部会等)ではなく、このような情報や補助制度などが集約できるWEBプラットフォームを作成してはどうかと思う。どこの施設も人材も予算も時間もない中で、更なるミッションを増やすのは現実的ではない。
- ・ 継続するために、仕組み作りも人材育成もとても大切だが「語り部」を守ることも必要なのではないか。
- ・ 語り部や防災活動に励む現場の皆さんの心理的ケア・サポートの取り組み。

⑤選択者の主な意見

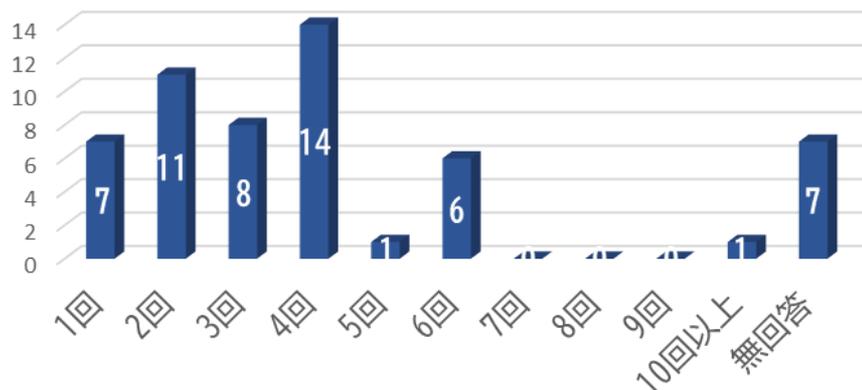
- ・ 自社で既に震災関連の情報誌の発行に携わっている。今後参加できるプロジェクトが立ち上がれば再検討する。
- ・ 現時点では当団体内で、今後の伝承業務に関する方向性が不明のため。
- ・ 今後の活動が未定なことから現時点では⑤。
- ・ 当部門は伝承活動を主体的に実施する機関ではないため。
- ・ 各部会において特に民間の伝承団体の闊達な意見交換の場とするため、特定の部会に参加するのではなく、必要に応じた役割を果たすオブザーバーとしての立場を希望するため。
- ・ 引き続きオブザーバーとして参加させていただきたい。
- ・ 他の業務を優先するため参加は困難。
- ・ 人員上参加が難しく⑤も選択。協力できることがあれば可能な範囲で活動に参加したい。

2 アンケート結果の報告

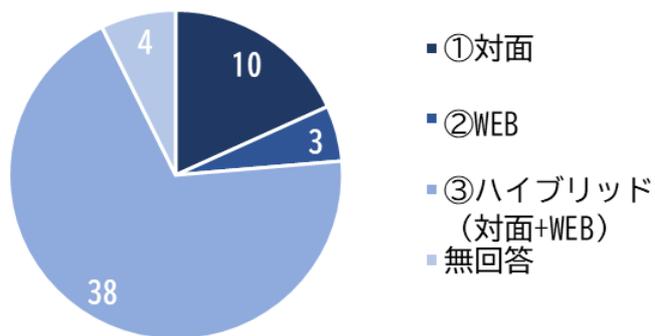
問5及び問6 部会の望ましい年間実施頻度と開催方式

➤ **4回程度**が最も多く、開催方式は**ハイブリッド**が多数

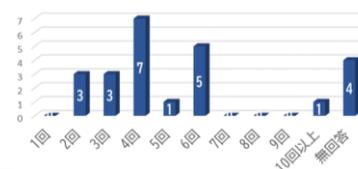
問5 部会実施頻度（全体集計）



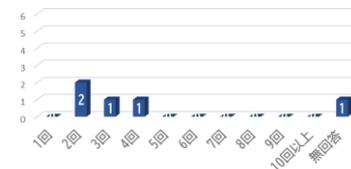
問6 開催方式（全体集計）



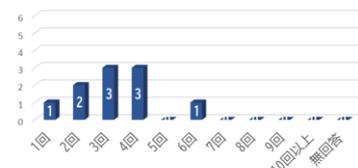
問5 部会実施頻度（伝承団体等）



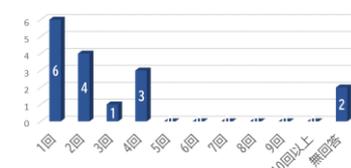
問5 部会実施頻度（報道機関）



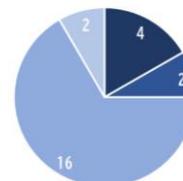
問5 部会実施頻度（企業等）



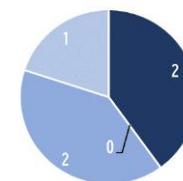
問5 部会実施頻度（行政機関）



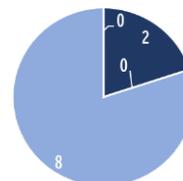
問6 開催方式（伝承団体等）



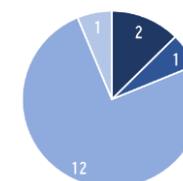
問6 開催方式（報道機関）



問6 開催方式（企業等）



問6 開催方式（行政機関）

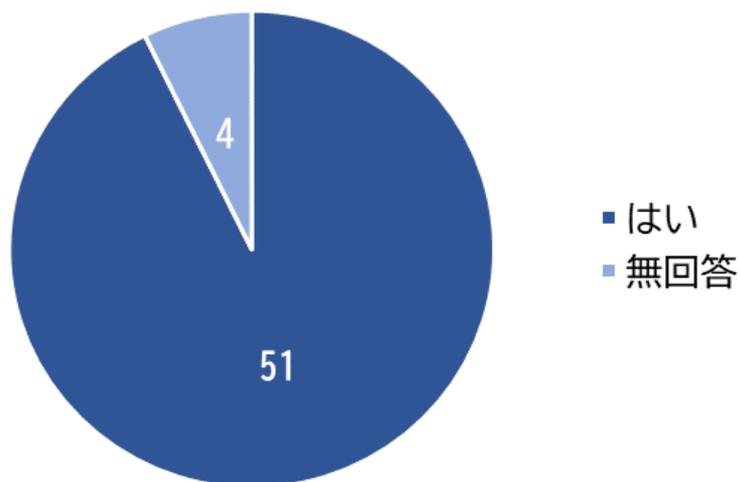


2 アンケート結果の報告

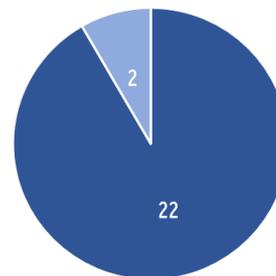
問7 WEB会議に参加できる環境の有無

➤ 無回答を除き、**どの団体も対応可**

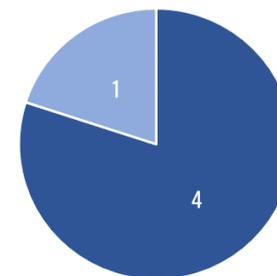
問7 Web会議環境の有無（全体集計）



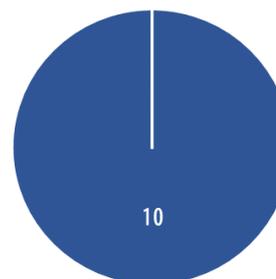
問7 Web会議環境の有無（伝承団体等）



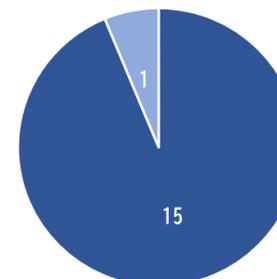
問7 Web会議環境の有無（報道機関）



問7 Web会議環境の有無（企業等）



問7 Web会議環境の有無（行政機関）



問8 部会活動を実施するうえで事務局に期待すること

- ・ **意見の集約、記録の作成・共有。部会活動の際のコーディネーター（司会・進行等）。**
- ・ 部会の内容によっては、危機管理課のみならずその内容によっては他の課との連携が必要だと考える。複数の課による横の連携を期待している。
- ・ 今後も、私が感じている県ならではの強み（県内エリア全般という中立性のあるコンソ事務局、役所であるという信頼性）をいかして一緒に歩んでいくお手伝いをして欲しいと願っております。
- ・ コンソーシアムの「部活動」の選択肢候補のすべてが、構成員が求める内容ではなく「県がやって欲しいこと」になっている懸念を感じます。「継続性の不安」を抱える各構成団体が期待するのは、新しい取り組みへの負荷の前に「地域の活動を継続・展開するための後押し」だと認識していますので、まず前提を議論する所からではないでしょうか。
- ・ **事前資料の作成が大事と思いますが、多少進んだら部会メンバーにもお手伝いいただいて作成もいいかもしれませんね。**
- ・ 意見の集約。
- ・ 被災者として何時までも悲しみを抱えないで、未来に進むことを取り上げて頂きたい。県内県外の学生、一般客を取り込む方策をお願いします。
- ・ 紙媒体でなく、全体を図式として、各団体の会員にも閲覧できるように（学生や高齢者等）してほしい。
- ・ 大変ですが上手く仕切りをして頂けると幸いです。
- ・ 会議の場で、個々の現状が伝えることが出来ないこともあり、まず個々の団体の現状の把握してもらいたいと思います。その中に他の必要な部会の推進項目も出る可能性もあるかと思えます。
- ・ いつも分かりやすい資料作成、ありがとうございます。
- ・ 第2回で全体でお示した部会活動としていますが欠席したメンバーとしましては具体的な事は何もわからないのでご返答のしようがありません。
- ・ **各団体からの意見を集約した記録とその共有。**
- ・ **各会員に事前のヒアリングがあるといいですね。**
- ・ 各部会活動の拠点が、その内容によってはみやぎ東日本大震災津波伝承館となっても良いと思います。そのような環境づくりを期待します。また、内容によっては県庁内やその他の組織との連携が必要になると思われますので、サポートをお願いします。
- ・ 意見整理と情報発信。
- ・ 対立する意見が出た場合の調整。
- ・ 意見、要望に対して速やかに具体化、実現化すること。
- ・ 各部会の進行並びに意志決定は事務局様にて行っていただくとスムーズかと思えます。
- ・ **活動をかたちにするために何らか必要なものが出てきた場合のサポート（人的、予算的サポート）。**
- ・ それぞれの部会で取りまとめるリーダーが、良い方向に牽引していくことを期待します。
- ・ 特定の部に所属しない代わりに、コンテンツなどのお問い合わせがあった場合にお手伝いできるような窓口になっていただければと思います。
- ・ **全体の舵取り、各部会の進捗報告のとりまとめ等。**
- ・ 中々参加出来ておりませんが、引き続きよろしくお願いたします。

続く

問8 部会活動を実施するうえで事務局に期待すること



続き

- 部会の全体オーガナイズ。議事の進行や意見集約、合意形成、議事の記録など。
- 本市の伝承施設の今後の活用等のアドバイスや支援。
- 多様な主体が集まる組織と認識しております。このため、様々な知見やアイデアはたくさんあると思いますし、そのアイデア出しのレベルであれば、各団体は実際の行動を厭わないと感じます。一方で、震災伝承の必要性・重要性への認識は共有されていても、これらの多様な主体が、「持ち出し」でさらなる活動を行う(それが今回の部活動のコンセプトと認識しております)ためには、現実的には何らかの明確なインセンティブ(個人や非営利団体には対価、企業や営利団体には、荣誉や対行政メリット(たとえば、〇〇手続きの緩和など))があるべきではないか、と感じます。もちろん、そうなると、そもそもの持ち出しのコンセプトはどこへ?ということになるとは思うのですが、この部分についてのご援助・フォローがあった方が良いのではないかと感じます。(すみません、これは、所属組織としてではなく、個人としての意見となります。昨今、CSRへの意識向上が喧しいですが、そうは言っても、民間企業は、その活動が、基本的には売上高・利益 に収斂される、という立付けでないと何事も活動しにくいものです・・・)。
- 特定の意見だけに引っ張られるのではなく、広く伝承関係団体の「声を拾う」ことにもご配慮いただきたいです。
- 部会の運営について会員による自主的な運営を原則とされていますが、運営が軌道に乗るまでは事務局が全体会での決定事項を踏まえ協議の場をリードする等フォローアップ体制を整えていただくことを期待します。
- 自治体と伝承団体とのパイプ役を含めた全体調整。できる限り、民間が主体となるような形で進めていただきたい。
- 部会を立ち上げ、部会活動を実施するにあたりスタートが大切だと感じるため、スタート段階は各部会に事務局が入り、スタート段階は特に中心となって進めていただきたいです。
- どのような事業でもそうだと思いますが、連携はそれぞれに成果・効果がある関係でないと継続は難しいと思います。県はお世話役ではなく、機会を創出する役割だと思うので、このような県内の関係施設、組織の方々が「このこういう取り組みとだったら手を組んで集客を図りたい」といった取り組みレベルでのマッチングが出来るような仕組みづくりを行うのが良いのではないのでしょうか。WEBの立ち上げには予算も手間もかかるとは思うのですが、運営はもちろんその機能を必要とする会員ですし、自分たちの手で自分たちに必要な情報サイトにしていくのが望ましいのではないかと思います。
- 仕組みづくりにだけ着目せず、個々の語り部のこと、特に私たちの団体のように細々と活動しているものの意見もちゃんと聞いてほしいし、大切にしたい。
- 継続的なサポート(様々な事務作業や情報発信のお手伝い)、持続可能な組織になる基盤整備を最初の段階でつくること。

2 アンケート結果の報告

問9 部会活動の進め方へのご意見やアドバイス

- 部会は1つではなく、複数存在したほうが良いと思う。1つだけだと単純なことが複雑化し本来の活動から趣旨が曲解し目的意識や方向性が分かりずらくなる傾向がある。今後の参加しやすくなり魅力にもなるのでは。
- 皆さんも活動したい気持ちはあっても、現実的に(時間や場所など)確保が難しいことも予想されますが、まずはスモールスタートではじめられそうなことから取り組んでいけたらと感じます。
- 会議は②ウェブ開催と、対面の時だけウェブ参加ありではどうでしょうか。ウェブメインで進めて最終集まるなど。
- 学校現場の防災担当者(防災主幹、防災主任)の参加できる時間帯に開催することが大事かと思います。
- 宮城県はリアスと砂浜の海岸が明確に地図上に示されています。被害被災状況を大きく2分割にして地域と住民の復興へ取り組むハードとソフト面をまとめて内外に発信して行く事が大事だと思います。
- 震災と無関係な組織の構築をしている方から講話を聴き勉強する事が必要だと考える。
- 会議だけで終わらずに、1つでも2つでも、具体的な形を作って積み上げていくと良いのかと思っています。
- これまで10年間、伝承の主體的な取り組みを支えてきた経験から、各伝承組織が1年後の事業すら見えず不透明な中で、財源や人的サポートの提示もなく新しい取り組みを求めても、(たとえ当初は意欲を示す団体がいくつかあったとしても)継続するのは難しい、と感じます。
- 会員同士にて協議する時間を一度作って貰いたい。
- 会員間交流の行き来をしやすくするため、会議開催場所を持ち回り制にしてはどうか。地域伝承活動や地域防災の取組みが肌で実感できたり、飲食やお買い物で地域経済に寄与できると思うから。
- 施設運営しながらのWEB会議は、夕方の時間帯など運営に支障ない時間帯で調整できればと思います。
- それぞれ強い思いや考えがあると思いますが、時には多数決で決定する必要もあると思います。
- まだスタートしていないので、なんともいえない。
- 活動において会員企業へ求めることをできるだけ明確に示していただければ、各会員企業もアクションを起こしやすいかと思います。
- 本業との兼ね合いでどこまで協力できるかは不透明な点はご了承ください。伝承を持続可能なくみにするためにはボランティア(=無償)ではなく有償とした方がやる方にも責任が発生するので長続きすると思う。
- 今年度の最重要目標など毎年の最優先事項を県庁サイドが年毎に決めて最終検証を行うと良いのではないかと。例えば問3の②を最重要事項としたら「実際に防災教材を使用した例などを取り上げて報告する」などです。
- 震災を経験していない若い世代の意見や疑問に応えながら、新たな手法の発信・伝承方法を模索していくことも必要だと感じてます。
- アイデア出し、コンセプトの提示であれば、皆さん厭わないと思います。が、身体を動かす、実際の時間の確保が発生するようなもの、については、一定のインセンティブを出すか、その部分はアウトソースしてもらえ、もしくは、その活動自体が利益を生んで再投入されて運用できる仕組みを作らないとなかなか活発なものにならないのではないかと、ということを感じています。
- 良く分からない状況で「部活動をやりましょう！」という提案を受けたため、もう一度「そもそも部活動で何をやるのか?」「部活動は何のためにやるのか?」といったところを、伝承関係団体で議論できれば、より丁寧な進め方になるのではないかと。
- 協議事項が少ない場合は、部会ごとにメーリングリストによる連絡調整を行い、全体会で報告という方法も可能かと思います。
- おそらく既にほぼ部会活動の方向で進められているものかと思いますが、これを前提にひとつだけ。〇情報発信(教育旅行等誘致セミナーへの参加、県外への出張語り部など)について⇒参加を希望する施設の集まり=部会、ではなく宮城県の震災学習を含む教旅プログラムコースの開発など、セミナーや商談会に会員が共有して使用できる資料(ガイドブック等)を作成する部会、というのが現実的ではないかと感じました。全てのコースを伝承または防災学習で組むニーズは無いに等しく、観光や体験と組み合わせるのが一般的です。その場合、こちら側が資料を整備しておけば、各自治体や広域連携で教旅を誘致する場面や旅行会社にスポットで売り込みが可能ではないかと思えます。
- オンラインも有効活用するが、メンバー同士でなるべく顔がみえる関係性づくりをしたい。いつも仙台で開催するのではなく、可能な限り県内各地で実施することもいいのでは。加えてそれぞれの現場をお互い見たり、知る機会があればなお相互理解が深まることも期待します。

2 アンケート結果の報告

問10 その他、コンソーシアムの今後の活動に期待することなど

- 先日子石川県で大規模自然災害が発生、より防災意識・日頃からの避難訓練の重要性が増しています。しかるに防災・備えに特化した補助や助成が殆どないのが現状。2024年度はしっかり継続や未来に向け確保して頂きたい。
- 県教委と横断的に情報の共有や取り組みが出来たらと願っております。
- とにかく対話ができる集会であります。**部会は専門性が参加したその人だけ高まるので、部会を録画して他の人にも見える化が大事かと思えます。
- 本務との兼ね合いで、時間の確保がかなり難しいです。コンソーシアムの運営の中核になる余裕はないのですが、大切な活動ですので、出来る限りご協力いたします。
- まだ始まったばかりで、これから皆さんと一緒に取り組んでいきたいです。
- 発する言葉は重要であるが、今後AIやChatGPTならびにVRが普及してくるためこれに対応した事を進めてほしい。
- 能登地震のようにまた必ず震災が起きます。頑張って継続して、東日本大震災の教訓を未来に繋げていきましょう。
- 震災伝承みやぎコンソーシアムの本質をぶれずに、ずれずに会員主体のプラットフォーム創り。
- 現状は「団体説明会の機会」に過ぎないために、毎回、参加者から質問が相次いでいますので、まず現状改善が期待されます。コンソーシアムを「組織体」にするためには、議決権、予算などを構成員に持たせるような根本的な転換が必要です。東日本大震災後の宮城県の取り組みは、今後の大災害のモデルとなりますので、目先の「部活動開始」を目指す、本旨からずれてゆくことを懸念します。長い目でご判断いただき、県内の伝承団体の活動を活性化させ、未来に向けて、県民、国民が命を守る主体性を促すために、コンソーシアムの在り方そのものを議論する場が必要と感じます。
- リアル会場は北部、中部、南部等を持ち回りで実施していただきたい。
- 活動を進めていく中で、広島などが平和学習の場となっているように、宮城（岩手・福島）が震災学習の場となるよう、岩手・福島との連携事業や全国・世界へ向けた情報発信なども模索して良いのかなと思います。*遠方から来訪される方は、広範囲を移動するので、連携が不可欠だと思います。
- コンソーシアムの活動が、震災伝承の新しい流れを作れば良いと思います。
- いつか来る災害のために教訓やノウハウを活用できるようにしておくことは重要。
- 年度の終わりでも、進捗状況が分かるまとめがあると良いかと思いました。
- 将来的にコンソーシアムメンバーが出席する防災フォーラム・展示会等が開催される様になればと思います。
- 震災の経験などしっかりと伝承しながら、その経験を活かし、未来へ向けた取り組み（発展・地域活性）を楽しみながら学べる、または参加できる子供たち向けの環境づくりをして行きたい。
- 能登半島地震がおき、あらためて東北の経験への関心が高まると思います。今年はいっそう当コンソーシアムの取り組みの重要性が増すものと考えますので、積極的に発信していきたいと思えます。
- コンセプトは共有していると思います。また、このような多様な主体が一堂に会しているということは非常に貴重だと感じております。一方で災害は、忘れたころにやってくる≒長期間の周期だと思えますので、コンソーシアムが長期間に渡って、防災や伝承の意識を保持しつづける集まりになるような、うまい仕掛けで運営していただけるとありがたいです。
- 伝承関係団体が様々に発言しやすく、その発言や得られた情報を基に、行政（国や県、市町村）や関係団体、そして伝承関係団体自身が今後の活動に活かすことができるような場を作り上げていただきたいです。**
- 他団体との連携を検討している団体同士のマッチングの場となるよう、事務局には今後も各団体が実施する事業について情報集約と会員間への積極的な共有を行い、団体同士の交流機会を作る等の支援を期待します。**
- 宮城県全体の震災伝承に係る情報共有等を引き続きよろしく願いいたします。**
- 年明け、北陸での震災に心を痛めておりますが、残念ながら連日の報道の中で東日本の経験が活かされているとは思えない場面も多々ありました。だからこそ伝承や防災学習が必要なのであって、その学びには価値があるということ全体で認識していく必要があるのではないかと感じています。
- 語り部の心のケア。私たちの団体のような経験が乏しい団体への事務作業手続きなどのヘルプやアドバイス。それが得意な団体との相互協力。
- お互いそれぞれの活動を維持、継続させていく取り組みは必要だが、自己顕示や我田引水的なお互いの活動に対し足を引っ張りあうような組織、環境にはしないような舵取りをコンソーシアムに願います。コンソーシアム以外にもすでに県内にはいくつかスキームがあり、それぞれ活動しています。そのそれぞれが仮に同じ方向を向いても、活動そのものがお互いの足を引っ張り合ったり、ダブったりしては目標へ向かう力が集積せずに足元が弱い組織になることを心配します。課題や取り組みをしっかりと議論できる活動になることを願います。

3 今後の進め方（アンケート結果を踏まえて）

方針

- 概ね部会活動に対して肯定的で、参加を希望する意見が多かった。
- 参加を希望する部会として複数を選択する団体が多い一方、懸念として、自団体の活動との両立を挙げる団体が多かった。
- 部会活動に限らず、長期的に検討すべき意見があり、こちらも全体会の場などを通じて、引き続き議論を続ける必要がある。

➤ 以上を踏まえて、従来の全体会に加え、まずは来年度部会活動を実施し、できる範囲で活動する。

3 今後の進め方（アンケート結果を踏まえて）

具体的な進め方

- まずはアンケートでお示しした**3つの部会**を立ち上げる。
- 自団体の活動との両立による負担軽減のため、**所属は1団体に
つき1部会まで**を原則とする。
 - 所属を希望する団体について再度アンケートを実施し、調整のうえ決定（2-3月）。
 - いずれかの部会に所属することを推奨するが、自団体の活動との兼ね合いなどで難しい場合は、所属しないという選択肢も可。
 - 各部会の活動内容については、他の会員とも都度共有し、必要に応じて協力を呼び掛ける。
- 年**4回程度**の開催とし、積極的に**WEB会議**を活用。
- 活動費の捻出方法については引き続き検討。
- 全体会は従来どおり開催（年2～3回程度）。

<活動イメージ（例）> ※会議時以外もメール等で随時情報共有

4月～5月

- 顔合わせ
- 方針の決定

5月～6月

- 事業内容の協議
- 役割分担の協議

7月

- 事業内容の決定
- 役割分担の決定

8月～

事業実施

3月

- 実績発表
（全体会）

意見交換

3つの部会

実施の方法（回数、ハイブリッド）

(再掲) 前回までの振り返り

○ 伝承に関する3つの柱を元に、コンソーシアムの5つの目標を設定

3つの柱 (県・基本方針、2021.4策定)

1. 震災の記憶・経験の蓄積と発信
2. 伝承や防災・減災に関する人材の育成と防災教育の推進
3. 多様な主体の連携による伝承の推進

5つの目標

- ① 語り継ぐべき経験・教訓の整理
- ② 幅広い層に向けた強力な情報発信の仕組の構築
- ③ 様々な手法・主体による伝承活動が実践できる環境づくり
- ④ 防災・減災推進の機運醸成
- ⑤ 持続的な震災伝承に向けた産学官民相互（会員間の情報共有）が、それぞれの強みを活かして連携する取組の創造

次回コンソーシアム全体会のご案内

令和5年度第4回震災伝承みやぎコンソーシアム全体会（予定）

- 日時：令和6年3月25日（月）午後1時30分から午後4時30分
- 場所：東京エレクトロンホール宮城602中会議室（今回と同じ）
- 内容：「令和5年度みやぎ震災伝承連携推進事業補助金」補助事業実績報告会（10団体）等